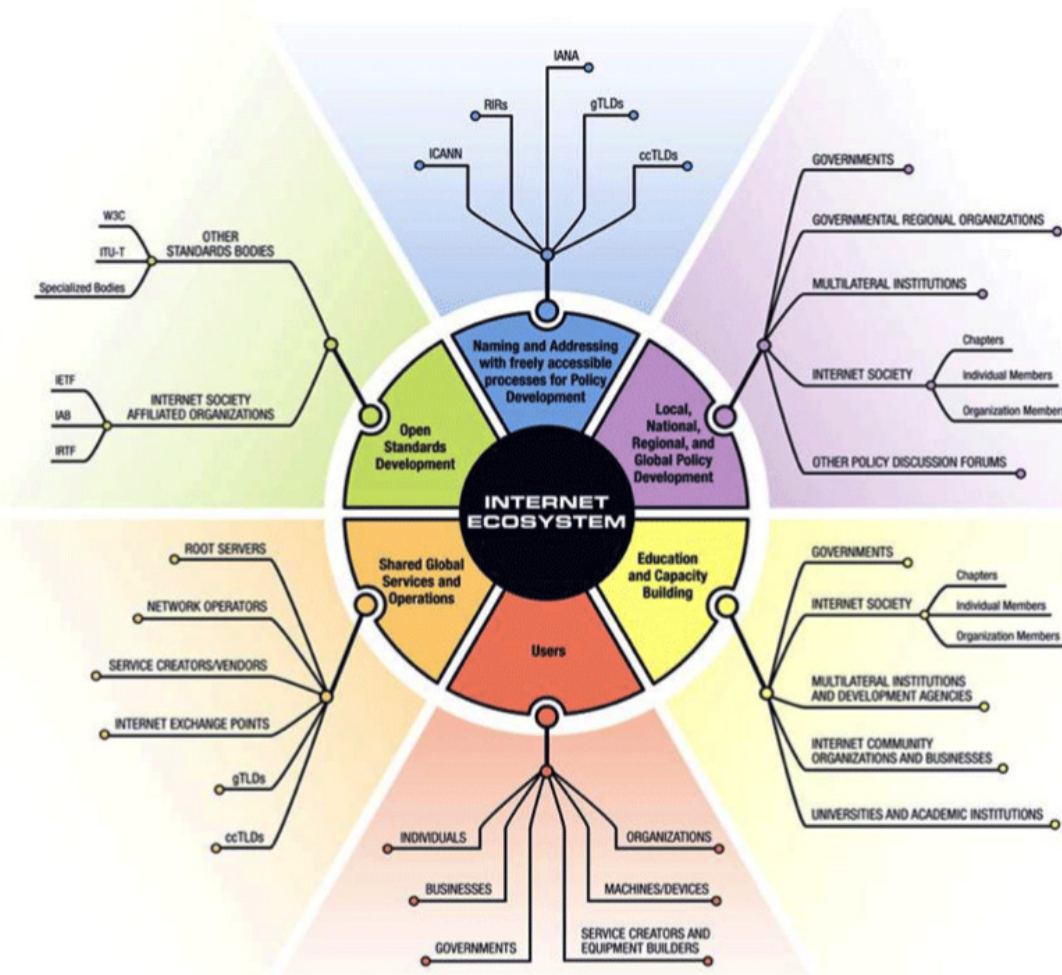


# IGF2014レポート

東京大学 江崎 浩

# インターネットのエコシステム

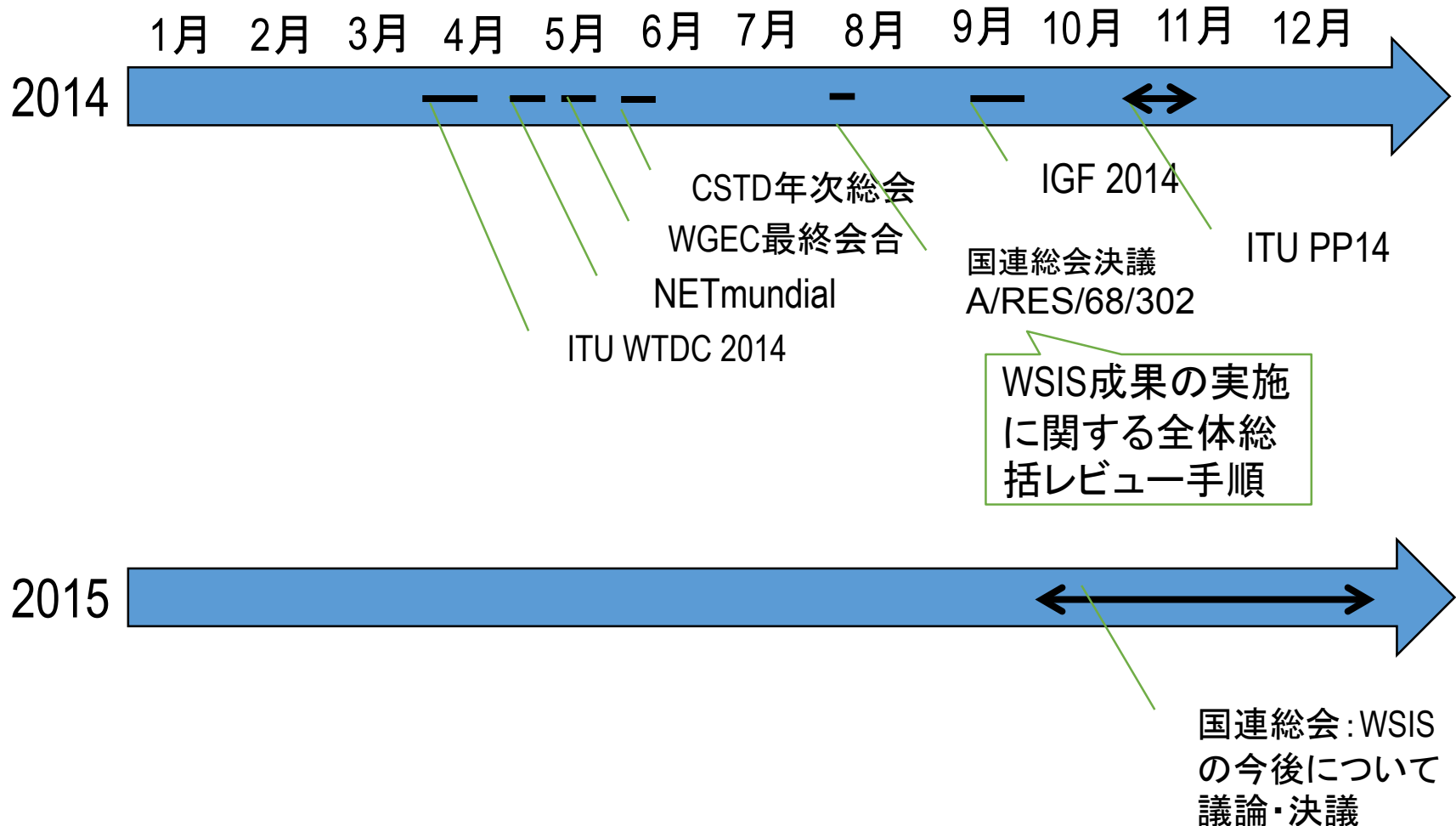
インターネットを取り巻く環境には多様な関係者が関わっている



**Who Makes the Internet Work: The Internet Ecosystem**

[http://www.internetsociety.org/sites/default/files/factsheet\\_ecosystem\\_020514\\_en.pdf](http://www.internetsociety.org/sites/default/files/factsheet_ecosystem_020514_en.pdf)

# インターネットガバナンスに関する議論の場



# IGFの特徴

- 誰もが自由に参加できる
  - 会議参加だけでなく、プログラムも公募
  - 幅広い関係者から構成されるMAGが選考を行う
- 異なる立場のステークホルダーによる参加を明示的に掲げている
  - 政府関係者、技術者、学者、市民社会、企業
- 相互対話を重視し、決定・交渉の場ではない
  - 対話を通じて課題・対策への理解を促進
  - 政策の策定や執行が必要な場合は、IGFでの議論を参考とし、それぞれのステークホルダーの権能に従って行う

# IGF 2014を取り巻く状況

- IGFの意義、対話のみで十分なのか問われた年
  - WSIS +10 review : IGFの成果検証
  - NETmundial会議 : 原則の文書化という具体的な成果
- 2014年ITU全権総会、2015年はIGFの開催年期延長が検討される
- NETmundial Initiativeなど、課題解決に向けてより踏み込んだ動き

誰もが幅広く参加し、議論できる場としてのIGFを継続するためには、より具体的な成果を示すことが求められつつある

# IGF 2014の特徴

- 「より具体的なアウトプットの提示」を重視
  - 結果の明確な文書化、関係者への能動的な周知
  - MAGで当初は、メインテーマに対する参加者の合意事項の文書化の案も出ていたが今回実施せず
    - 文言に関する議論に集中・交渉の場と化するなどの懸念
- セッションの特徴
  - Best Practices Forum開催
  - 7つのメインセッションのうち「IANA機能の監督権限移管」、「ネットワーク中立性」もカバー
  - NETmundial会議の振り返りを含め、IGF外の動きからIGFのあり方を議論

# IGF2014の概要

- 日時： 2014年9月2日(火)から5日(金)
- 主催： 国際連合 (United Nations)
- ホスト国： トルコ
- 開催地： トルコ・イスタンブール
- 参加者： 144カ国2,403名（遠隔参加：1,291名）



# IGF2014のテーマ

- メインテーマ: Connecting Continents for Enhanced Multistakeholder Internet Governance
- サブテーマ:
  - アクセスの実現に向けた政策
  - コンテンツの生成、普及と利用
  - インターネットを原動力とした成長と発展
  - IGFとインターネットエコシステムの未来
  - オンラインの信頼の向上
  - インターネットと人権
  - クリティカルなインターネット資源

これらのテーマに基づき、約100セッションを4日間で開催

## Chairのサマリーレポート

<http://www.intgovforum.org/cms/documents/igf-meeting/igf-2014-istanbul/308-igf-2014-chairs-summary-final/file>



# 着目したい議論・動向

- 経済界を取り込んでいく必要性
  - オープニングセッション含め複数の参加者が強調
  - 主要な米国企業はMAG、IGF共に関わり、情報交換
- より具体的なアウトプットを求める動き
  - 最適な運用Best Practicesの文書化の試み
  - NETmundial Initiativeの発表：WEFの役割を疑問視する声はあるが対応の必要性は認知されている模様
- 国内でも議論されうるテーマのセッション
  - 国の規制によるビジネス観点からの影響：  
Akamai、CloudflareなどのIT企業から登壇
  - キャリアグレードNAT(Carrier Grade NAT)の影響
  - 善意目的をきっかけとしたオーバーブロッキング

# 最適な運用事例「Best Practices」の文書化

- 実際の課題解決への寄与が少ないとの懸念に対応するため、5つのテーマにおいて実施
- 文書化したものを幅広いコミュニティに配布
  - テーマによっては実践例にとどまらない、考え方や方針を含む内容が中心
    - 文書化されるとIGFの「対話の場」としての性質を変えていくことにもなりかねないため留意が必要

## Best Practicesのテーマ：

1. マルチステークホルダーによる意義のある参加メカニズムの構築
2. 望まれていない通信への規制と回避策(例：spam)
3. インターネットセキュリティのためのCERT の設立と支援
4. ローカルコンテンツの策定を実現するための環境
5. オンライン上での児童保護の最適な事例

# 国・地域別の参加状況

- 米国は官民ともに参加、主要な民間企業から政策担当の代表者が参加
- 欧州は欧州委員会、民間からはIXPからの参加が目立つ
- アジアはインドネシアが民間からの参加者も多く個別会議も実施、中国は政府関係者が要所で積極的に発言
- 技術コミュニティからは、IETF、RIR、ccTLD、ICANNの関係者が参加、セキュリティ分野の専門家も一部参加

# IGFの改善・今後に関する議論

- IGFの意義
  - マルチステークホルダーメカニズムに基づく検討のあり方にロシア以外政府関係者含めて支持表明
  - 一方、IGF具体的な問題解決に対して効果的ではないとの意見も中国、イランの政府参加者から表明
- IGFの継続性：安定性
  - 資金提供の動き：IGF Support Associationの設立
  - 現在2015年まで設定されているIGF開催年限延長
- 継続検討を必要とする取り組み
  - 地域・国単位での連携強化
  - IGFでの議論の会議間の継続性

# IGF 2014振り返り、2015 IGFに向けた検討

- 国内における振り返り
  - 日本からの参加者による振り返りの会を実施
  - IGFの議論プロセス、仕組みの話が不十分：より構造的に議題・議論設定したほうがよいとの意見も
  - 継続検討課題：日本としてどう関わっていくべきか
- IGF 2014振り返り、2015 IGFに向けた検討
  - 2014年12月1～3日 スイス・ジュネーブ
  - <http://goo.gl/Gcv024> (国連事務局のWebサイト)
  - 誰もが参加可能、リモート参加も可能
- 注視したい点
  - 今後どの程度アウトプット重視を目指すのか
  - 課題への継続的への対応としてWGの設立も議題